

SONRISA

そんりさ vol. 186



エクアドルの鉱山開発反対の住民投票の勝利報告集会

二〇二三年エクアドル
大統領選挙、その混乱の中で

02	2023年エクアドル大統領選挙、その混乱の中で	……一井リツ子
05	2017年人口センサスでみるペルー社会（4）	……村井 友子
11	グアテマラ 検事総長辞任を要求してゼネストー 続く選挙後の緊迫	……新川志保子
13	回想のラテンアメリカ 首都サンティアゴに着いて	……唐澤 秀子
15	ペルー音楽 ラテンアメリカにおけるフェミニズムを めぐる歌の旅（3）	……水口 良樹
17	ラ米百景 アジェンダの最後の愛人	……伊高 浩昭
18	メキシコ料理 ピーマン肉詰め	……ミゲル・アクーニャ
19	ムネちゃんのLA情報拾い読み・斜め読み	……小林 致広

2023年11月18日 日本ラテンアメリカ協力ネットワーク（RECOM）発行

2023年エクアドル大統領選挙、その混乱の中で

一井 リツ子

初めて南米エクアドルを訪れたのは2013年2月、ちょうど大統領選の真最中だった。当時再選を目指していた左派のラファエル・コレア候補が、演説会で熱狂的な聴衆を前に熱弁をふるっていたのを思い出す。私はこの旅で豊かな自然や人々のおおらかさにすぐに心を奪われたのだが、この10年で国の内情は大きく変わった。

10年間の内情変化

当初、このラファエル・コレア大統領(任期2007-2017年)は「自然の権利」を明記するエクアドル新憲法の制定など環境や先住民族保護的政策を取っていた。しかし、その後は開発主義へと大きく路線を変更してしまった。その債務を引き継ぎ、後継者であったが袂を分かつこととなるレニン・モレノの政権下(2017-2021年)では、国際通貨基金(IMF)などからの債務も膨らんでいった。そのために強いられた緊縮政策によって2019年には数万人規模の民衆隆起が勃発した。

その後、モレノを無能呼ばわりしていた右派ギジェルモ・ラッソが大統領に就任することになった(本来の任期2021-2025年)。ラッソも同様な新自由政策で、経済悪化はさらに深刻化していった。開発主義によって暮らしや生きる術を奪われている農民や先住民族など多くの民衆たちの怒りが爆発し、エクアドル先住民族連盟(CONAIE)が中心となり、2022年6月には18日間の全国ストといった新たな大規模な反政府民衆隆起が起きている。

ラッソ大統領の「差し違え」による臨時総選挙

2023年5月、ラッソ大統領の横領に関わる犯罪容疑について野党からの弾劾が最高裁判所で承認された。これに対して、ラッソは5月17日、重大な政治危機と国内混乱を招いたとして、大統領選挙の前倒しと国民議会を解散する大統領令を発令し、いわゆる「刺し違え」が生じた。彼自身は大統領選挙への不出馬を表明した。

8月20日に行われた臨時総選挙に際して、女性1名、男性7名が大統領に立候補した。この選挙は、現在も大きな存在感を持つコレア派 VS 反コレア派という色彩が強かった。

政権奪還を狙うラファエル・コレア元大統領は



2023年8月20日の第一回選挙結果(得票率)

収賄罪のため8年の実刑判決を受けていて、出馬することができず、国民からの根強い反発もある。現在は亡命先のベルギーで暮らしているが、政治的発言も多い。

今回、彼の代替候補として弁護士・前議員のレイサ・ゴンサレスという女性候補が、低所得者向けの支援などを訴えて「市民革命党(RC)」から出馬、エクアドル初の女性大統領を目指していた。

暴力による混乱

しかし彼女は、立候補手続きのため全国選挙評議会(CNF)の構内で、警官から催涙ガスを噴射され、医師から治療を受けることになった。同じくこのコレア派の市民革命党に所属するハイロ・オラヤ議員は、4人の殺し屋が発砲した弾丸2発が命中し重症、緊急入院となった。

同様に8月10日、選挙まであと10日に迫った頃、中道の大統領候補のフェルナンド・ビジャビセンシオは、キト北部での選挙集会を終え、頭部に3発の銃弾をうけて殺害された。元ジャーナリストの彼は、これまで数人の大統領に対して、公共事業汚職追及による告発をおこなってきた。セダスト社の世論調査によると、彼はレイサ・ゴンサレス26.6%について13.2%と支持率第2位につけていた。

他にもこういった攻撃により9人の負傷者もでていて、レイサ・ゴンサレスを含む大統領候補者の多くはビジャビセンシオの死を悼み、遺族への連帯の意を表明していた。また10月6日には、このビジャビセンシオ暗殺に関与したとされる6人

のコロンビア人が、収監されている刑務所で死亡しているのが見つかった。これにはビジャビセンシオは組織犯罪対策強化や汚職撲滅を訴えていたため、犯罪組織とのつながりが指摘された容疑者らの口封じという可能性が示唆されている。

前回 2021 年の大統領選挙で、エクアドル先住民族運動の大統領候補となり 3 位となったヤク・ペレスは、今回は「人民連合 (UP)、エクアドル社会党 (PSE)、デモクラシー・シーの連合」から出馬を表明しているが、この事態を批判し立ち向かうために団結を呼びかけていた。

ラッソ現大統領は、この殺人に対し、犯罪組織がエスカレートしたことに触れ「市民の安全を保障するため、国を安寧にするため、自由で民主主義的な選挙が行われるよう」60 日間の非常事態宣言を発令した。

エクアドルは近年、暴力のスパイラルと、その歴史においても最悪の治安悪化の中にある。この 3 年間で人口 10 万人当たりの殺人事件の被害者が 3 倍に急増しており、その背景にはエクアドルの港がコカイン輸送のための起点とされ、ここ数年でこの国は、コカインの欧州や米国に密輸の一大拠点になったことが指摘されている。そして太平洋岸で力を増大させる犯罪組織、麻薬組織がこれら犯罪の大多数に関与しているという。

こうした暴力による混乱の中、8 月 20 日に行われたエクアドル大統領選挙の投票率は 82.26% だった。結果は事前の調査の予測どおり、コレア派のルイサ・ゴンサレス (45 歳) が第 1 位 (26.41%) となり、第 2 位 (24.32%) には右派のダニエル・ノボア元議員 (35 歳) が入った。

最年少候補である彼は、経済界の王者であるバナナ王の長男として知られ、エクアドル最大の独占グループ「ノボア・グループ」の代表である。彼は政党連合、国民民主連合 (ADN) から立候補し、政治経験も浅く、選挙の数週間前の世論調査では 5% の支持率しかなく、当初は泡沫候補とみられていた。討論会でその票を伸ばしたといわれ、大きなサプライズとなった。この二人の一騎打ちは、10 月 15 日の決選投票に持ち越された。

自然保護区の鉱山開発をめぐる国民投票

この総選挙と同時に、生物多様性の宝庫であるアマゾン地域のヤスニ国立公園のブロック 43ITT の原油を無期限に地中を眠らせておくかとの国民投票が行われた。投票者約 940 万 (投票率 71%)



国民投票実施を呼び掛けてきたヤスニドス

で、掘削停止の賛成票が 59% を獲得した。

ラファエル・コレア大統領は、2007 年、「ヤスニ ITT イニシアティブ」を提唱した。世界的な遺産ともいふべきこの地で CO² の排出源ともなる石油採掘を避けるため、石油開発で予想される利益の 50% = 36 億ドルの拠出を国際社会に求めるといったものであった。

このイニシアティブは斬新な環境対策として注目を集めていたが、拠出金の確保は芳しくなかった。そのため、2013 年、コレア政権は油田開発の再開を発表した。

それに対する反発として、若者たちが中心となる環境保護グループ「ヤスニドス (Yasunidos)」が生まれた。今回、彼らは 75 万 7000 人の署名を集め、選挙機関への法廷闘争を展開し、国民投票を具体化させた。脆弱な生態系や先住民族保護へと繋がるこの投票に関して、俳優のレオナルド・ディカプリオもキャンペーンに参加、「気候政策民主化の手本」と称賛している。

すでにブロック 43ITT を 2016 年から操業してきた国営企業ペトロエクアドル社は、国民投票の結果について、民衆の決定を完全に尊重すると表明している。その一方で、「ここでの石油生産はエクアドル全体の約 48 万バレルの約 11% に相当し、採掘中止でこうむる損失は年間 12 億ドル、20 年間で 138 億ドルに相当する」と説明している。

これに対して、ヤスニドスのメンバー、アレハンドラ・サンティジャンは、「この数値はかなり誇張されていて、国民投票の結果は下からの直接民主主義が可能であることを示すものだ。一度皆が席に座し、いかにして社会的、エコロジーで公正なエクアドルに移行するか議論すること、世界に向かってこれを提起することが重要だ」と、ヤスニの土地に利権を獲得している中国企業の撤退など、今後の具体的な手段を提示しながら述べた。



ヤスニ（左）とチョコ・アンディノ（右）の国民投票
(El Universo, 3 de septiembre, 2023)

同日、首都キトの北西部のピチンチャ県の農村部にあるチョコ・アンディノの生物保護区での鉱山開発に関する住民投票も実施された。鉱山開発禁止が68%の賛成で決定した。この地区は、約300万人が居住するキトの肺とも呼ばれる土地である。

開発主義への反対

エクアドル全国先住民連盟（CONAIE）のレオニダス・イサ議長は、鉱山開発をめぐる住民投票に関して、「地球生命を守るための全世界の闘争の火種になった」と評価した。また、大統領選挙に関しても鉱山開発への姿勢が重要であるとして、人権侵害も顧みず強権的に開発主義を進めたコア派のゴンサレス、新自由主義を継続する右派ノボアのどちらも支持していない。

さらに北部に位置するインタグ地方、熱帯アンデス山脈の裾野に広がる世界で最も生物多様性が豊かなホットスポットの一つである雲霧林の森でも、30年近くわたって、日系企業を始めとする様々な企業によって鉱山開発危機が繰り返され、地域住民とのあいだで攻防が続いていた。

この地域では、エクアドルとチリの両国営企業（ENAMI-CODELCO 社の合弁事業）による銅山開発によって、ジュリマグプロジェクトが強引に進められていた。しかし、今年3月29日、インバブラ県地裁において、憲法に明記される「自然の権利」に基づき、両社の銅採掘ライセンス取り消しを命じる画期的な判決が下された。

エクアドルは2008年、世界で初の「自然の権利」を認める新しい憲法を採択した。自然の生態系は存在し、繁栄し、進化する権利を有するというものである。個人や地域コミュニティが、この「自然の権利」を自然の「代理人」として保護する権利を認めている。



ルイサ・ゴンサレスとダニエル・ノボア

近年、コロナ禍を経て深刻な財政危機により、エクアドルでは、強引で過度な開発主義の加速されてきた。今回、退陣するラッソ政権は、年間70億ドルの財政赤字を黒字にすることが可能であるとして、熱帯やアマゾン地域に矛先をむけた石油産出倍増計画などを提案していた。

世界に誇るこの国の貴重な自然環境は常に脅かされてきた。しかし多くの人々は、緊縮政策やその生活不安の中においても、短期的な財源の引き換えとして母なる大地や、それにより生み出されてきた多様な民族文化の破壊を望んでいない。

新自由主義政策の継続か？

10月15日の大統領選挙の決選投票（投票率82.33%）の結果は、ダニエル・ノボアが得票率約52%で、ルイサ・ゴンサレス（約47%）に勝利するというものだった。彼の統治期間は、退陣したラッソの本来の任期末2025年5月までである。

ノボアは支持者を前に「暴力や汚職、憎しみによって深く傷ついた国を再建する」と述べ、治安の回復などに優先して取り組む考えを示した。麻薬の密売組織といった犯罪組織が、軍や警察に入り込み利用しているとも指摘されるなか、国の統治能力を取り戻せるかが、課題として問われることになる。

またノボアは新事業の活性化などによる雇用の創出を訴えている。エクアドルで国内有数の富豪であり実業家という彼によって継続される新自由政策が、主要な産業を石油やバナナ・カカオ・エビといった第一次産品が占めるこの国の未来をどう変えるのか？

このエクアドルの最大の長所というべき、その多様な生命や文化、人々の暮らし、そしてその心が壊されてゆかぬようお願いしつつ、今後も動向を注視していきたいと思う。

はじめに

連載「2017年人口センサスからみるペルー社会」の最後の本稿では、2017年10月22日～11月6日に実施された人口・住宅センサスと同期間に実施された第3回先住民族共同体（コミュニティ）センサスの取り組みと調査結果からみえる先住民族の姿をお伝えします。

先住民族共同体センサスとは？

先住民族共同体センサスは、ペルー国内で共同体を形成し集住している先住民族に焦点を絞り、共同体単位で実施する統計調査です。このセンサスは、1993年に第1回、2007年に第2回が実施されていますが、過去2回の調査はアマゾン地域の先住民族共同体に限定して実施されたもので、アンデス山岳地域や海岸地域に居住する先住民族共同体はこれまで調査の対象外になっていました。

一方、2017年の第3回先住民族共同体センサス（Censos Nacionales 2017 de III de Comunidades Indígenas）では、従来のアマゾン地域に加え、山岳地域と海岸地域の先住民族共同体も対象とし、これによって初めてペルーの先住民族共同体全体を包括する共同体のセンサスが実現しました。調査名称はアマゾン地域が第3回ナティーバ共同体センサス（III Censo de Comunidades Nativas）、山岳地域と海岸地域が第1回カンペシーナ共同体センサス（I Censo de Comunidades Campesinas）です。

ペルーの先住民族共同体：「カンペシーナ」と「ナティーバ」

ペルーでは先住民族をその居住区によって呼び分けていて、アマゾンの熱帯低地地域（Selva）とアンデス山脈の東側のアマゾン地域に繋がる傾斜地（Ceja de Selva）に住んでいる先住民族集団を Comunidad Nativa（ナティーバ共同体）と呼び、アンデスの山岳地域（Sierra）と海岸地域（Costa）に住む先住民族集団を Comunidad Campesina（カンペシーナ共同体）と呼んでいます。

このカンペシーナ（Campesina）という先住民族の呼称はペルー独特のもので、1960年代末に始ま

ったベラスコ軍事政権（1968-1975）が先住民文化の再評価を積極的に行い、差別的な語感のあるインディオ（indio）やインディヘナ（indígena）を、農民を意味するカンペシーナに置き換えたことにはじまります。

一方、ナティーバは「原住民・先住民」を意味し、インディヘナ「先住民」とほぼ同義ですが、同じくベラスコ政権よりアマゾン地域に住む先住民族共同体を総称する名称に位置付けられました（Pajuelo 2007; 清水 2009）。ベラスコ政権は、大胆な農地改革を実施し、先住民族文化復権政策の一環としてケチュア語をペルーの公用語に位置付け、1972年の教育改革で、ケチュア語とスペイン語によるバイリンガル教育をペルーで初めて導入しました（Pajuelo 2007）。

表1は、第1回から第3回までの先住民族共同体センサスの実績をまとめたものです。この表の集計結果から、第1回と第2回では、ナティーバ共同体のみが対象であったこと、2017年に実施された第3回先住民族共同体センサスで初めて、ナティーバ共同体とカンペシーナ共同体の両方が対象になったことが確認できます。

第3回先住民族共同体センサスの対象になった共同体の数は9385で、対象人口は343万8866人でした。2016年12月時点でペルーのカンペシーナ共同体とナティーバ共同体のダイレクトリ（Directorio de Comunidades Campesinas y Nativas del Perú）に9433（ナティーバ2166、カンペシーナ7267）

表1 先住民族共同体センサスの実施状況

	共同体数	人口	民族の種類
第1回（1993年）			
ナティーバ共同体	1,458	239,574	48
第2回（2007年）			
ナティーバ共同体	1,786	332,975	51
第3回（2017年）			
ナティーバ共同体	2,703	418,364	44
カンペシーナ共同体	6,682	3,020,502	20
合計	9,385	3,438,866	64

出所：INEI（2018a）を基に筆者作成

の共同体数が登録されていたという報告があることから (Tipula, 2021)、何らかの事情により、2017年に調査が実施されなかった先住民族共同体が存在すると考えられます。また、第1回から第3回までのナティバ共同体の調査対象共同体数が回を重ねるごとに増えていることから、国立統計情報庁 (INEI) が段階的に調査対象を拡大していったことが伺えます。

ペルーの先住民族共同体の規模は、カンペシーナ共同体の方が、ナティバ共同体より圧倒的に大きく、2017年の実績では、カンペシーナ共同体が、ナティバ共同体と比べて、共同体数ベースで2.5倍、人口ベースで7.2倍になっています。

2017年先住民族共同体センサスの調査票

2017年センサスは、人口・住居センサス調査票と先住民族共同体センサス調査票 (表2参照) の2種類が用いられました。人口・住居センサスが、ペルー国内の全住居への調査員による戸別訪問調査により実施されたのに対し、先住民族共同体センサスは、共同体への調査員の訪問調査により実施されました。

センサスの質問にはアプ (Apu) *、プレジデント (Presidente/a)、または首領 (Jefe/a) と呼ばれる共同体の長が代表して回答しています。

2017年先住民族共同体センサスの調査票は、ナティバ共同体とカンペシーナ共同体に共通で、最初にどちらに属するか選択する形式になっています。調査票は以下の12のセクションに分かれ、108の質問で構成されています。

セクションI: 共同体の地理的情報・センサスの登録情報、II: 共同体の長 (アプ、プレジデント、首長) の情報、III: 共同体の主な特徴、IV: 共同体の組織、V: 共同体の土地の現状、VI: 設備・公共サービス・インフラ・交通手段、VII: ベースとなる社会組織と社会プログラム、VIII: 教育、IX: 健康と伝統医療、X: 共同体の経済活動の特徴、XI: 伝統的または先祖代々に共同体で受け継がれてきた慣習、XII: 移住 (詳しくは表2を参照)。

*注

アプ (Apu) は、ケチュア語で「神・領主」を意味し、アンデス高地の山岳信仰では、地域の人々や家畜、作物を見守る山の神・守護神とみなされている。

表2 2017年先住民族共同体センサス調査票

セクション	質問テーマ	質問内容
I	共同体の地理的情報 センサスの登録情報	・ 共同体の地理的情報、センサスの登録情報、住所 ・ 「ナティバ共同体」か「カンペシーナ共同体」か、どちらか選択
II	共同体代表の情報	・ 共同体代表 (アプ、プレジデント、首長) の氏名、性別、年齢、学歴、共同体での居住年数 ・ 共同体での役職経験回数
III	共同体の主な特徴	・ 共同体名 ・ 最も頻りに使われている言語 ・ 所属する民族集団名 (民族名を具体的に記載) ・ 共同体の構成員数 ・ 共同体に居住する構成員数、共同体の外に移住している構成員数 ・ 共同体の構成員の氏名、居住地区
IV	共同体の組織	・ 共同体規約の有無とその有効性 ・ 共同体名簿の有無と更新の有無 ・ 共同体名簿に登録された構成員数と共同体運営に携わる構成員数 ・ 共同体・ボードの有無と構成員数 (男女別)、および任期 ・ 「ナティバ共同体/カンペシーナ共同体に関する法律」で規定された該府当局以外の伝統的権威が存在するか? ・ 伝統的権威が存在する場合、役割を具体的に記載
V	共同体の土地の状況	・ 共同体の公的機関からの認証の有無と認証機関 ・ 共同体としての土地の所有権の有無 ・ 土地所有権を持つ場合、共同体の土地の所有権の認証機関 ・ 土地紛争の有無 ・ 土地紛争がある場合は係争相手 ・ 水管理に関する紛争の有無 ・ 水管理に関する紛争がある場合は係争相手 ・ 共同体が直面している主要問題
VI	施設・設備、サービス、インフラ、交通手段	・ 共同体が共有する施設・設備・車両・農作業用機具 ・ 共同体中心地 (capital distal) の各種施設の有無と数 ・ 共同体中心地での通信サービス (インターネット、テレビ、ラジオ放送など) へのアクセスの有無とアクセス数 ・ 共同体から地区中心地までの道の状況 ・ 共同体から地区中心地への交通手段
VII	ベースとなる社会組織と社会プログラム	・ 共同体が関係する社会組織 ・ 過去12ヶ月に共同体の構成員が恩恵を受けた社会プログラム
VIII	教育	・ 共同体中心地に教育施設が存在するか、その数 ・ 教育施設に異文化間交流バイリンガル教育施設が存在するか、その数 ・ 共同体内の教育施設の種類の数 ・ 教育施設の教師の情 ・ 先住民言語の教材の有無を段階別 (1. 幼児教育施設 2. 小学校 3. 中学校) 別に記入 ・ 教育施設の各種サービス (上水道、電気照明、トイレ施設など) の有無
IX	健康と伝統医療	・ 共同体中心地に医療施設があるか、その数 ・ 医療施設の種類の数 ・ 医療施設で働く医療従事者の種類と人数 ・ 過去12ヶ月間の病気および/または事故の数と原因 ・ 伝統的・先祖伝来の健康慣習
X	共同体の生産・経済活動の特徴	・ 共同体の生産・経済活動の種類 ・ 生産・経済活動の形態 ・ 経済活動で得られる生産品を農業、牧畜、手工芸、林業、その他 (具体的に) に分けて記載 ・ 共同体が直面している主要問題
XI	伝統的または先祖代々に共同体で受け継がれてきた慣習	・ 伝統的または先祖代々の慣習を用いて実施されている活動 ・ 上記の活動について慣習が失われようとしているか? (1. はい 2. いいえ) ・ 上記で1. はいと回答した場合一実施されなくなった要因 ・ 現在、共同体で受け継がれている伝統的あるいは先祖代々の慣習 (具体的に記述/該当なし)
XII	移住	・ 過去12ヶ月間に移住した共同体の構成員の数 ・ 移住の主な理由 ・ 過去12ヶ月間に移住から戻ってきた共同体構成員の数 ・ 共同体の構成員の家族で共同体の外に家を所有している数

出所: INEI (2018c, 2018d) を基に筆者作成

拙稿 (そんりさ 185 人口センサスでみるペルー社会3) で2017年人口センサスの調査票にペルー人の民族的帰属意識と幼少期に母語として学んだ言語に関する質問が設けられたことを報告しましたが、先住民族共同体センサスの調査票では、セクション III で共同体の民族への帰属意識と使用言語を問う以下の質問が設けられています。

- 「あなたの共同体はどの先住民族に属していますか? (具体的に記載)」
- 「あなたの共同体で最も頻りに話されている言語、または先住民言語は何ですか?」 (具体的に記載)」

先住民族共同体センサスでは、共同体の民族への帰属は、回答者である共同体の長の判断 (= 自己認識) にゆだねられました。これは、先住民の権利を定めた条約である ILO 第169号で述べられている「先住民族又は種族民としての自己認識が根本的な基準とみなされるべきである」(トメイ、スウェプストン, 2002) という考え方に依拠していると考えられます。言語については、各共同体の日常生活で、実際に話されている言語について質問しています。

カンペシーナ共同体の分布

表3のとおりカンペシーナ共同体はトゥンベス県を除く23県に分布しています。共同体数は多い順にプーノ県(1352)、クスコ県(969)、アヤクーチョ県(704)で、人口はピウラ県(43万9078人)、プーノ県(31万2173人)、フニン県(30万1562人)の順に多くなっています。県別の共同体の構成員数の平均値は、最多がランバイエケ県の4,899人、最少がマドレ・デ・ディオス県の93人と大きなばらつきがあり、地域により共同体の規模に違いがあることがわかります。全国平均は452人でした。

表3 カンペシーナ共同体の県別分布

県名	共同体		人口		共同体構成員数の平均(人)
	数	順位	人	順位	
プーノ	1,352	1	312,173	2	231
クスコ	969	2	296,541	4	306
アヤクーチョ	704	3	199,327	6	283
ワンカベリカ	672	4	232,992	5	347
アブリマク	522	5	178,333	9	342
フニン	456	6	301,562	3	661
アンカシュ	361	7	192,278	8	533
ワヌコ	318	8	195,805	7	616
リマ	291	9	130,202	11	447
ロレート	164	10	35,656	16	217
ピウラ	142	11	439,078	1	3,092
ラ・リベルタド	134	12	104,430	12	779
カハマルカ	112	13	88,777	13	793
アレキパ	112	13	33,155	17	296
パスコ	107	15	55,790	15	521
モケグア	76	16	10,649	18	140
アマソナス	59	17	57,111	14	968
タクナ	46	18	7,330	19	159
ウカヤリ	38	19	3,596	20	95
ランバイエケ	29	20	142,066	10	4,899
イカ	13	21	2,716	21	209
サン・マルティン	4	22	842	22	211
マドレ・デ・ディオス	1	23	93	23	93
合計	6,682		3,020,502		452

出所: INEI (2018d) を基に筆者作成

先住民族共同体の分布

表4のとおり、ナティーバ共同体のセンサスは11県に分布しています。共同体数は、多い順に、ロレート県(1170)、ウカヤリ県(383)、アマソナ

表4 ナティーバ共同体の県別分布

県名	共同体		人口		共同体構成員数の平均(人)
	数	順位	人	順位	
ロレート	1,170	1	147,398	1	126
ウカヤリ	383	2	52,633	4	137
アマソナス	362	3	58,166	3	161
フニン	285	4	79,743	2	280
パスコ	183	5	23,412	6	128
サン・マルティン	134	6	27,300	5	204
クスコ	100	7	18,040	7	180
マドレ・デ・ディオス	37	8	5,276	8	143
ワヌコ	22	9	4,307	9	196
カハマルカ	17	10	1,217	10	72
アヤクーチョ	10	11	872	11	87
合計	2,703		418,364		155

出所: INEI (2018d) を基に筆者作成

ス県(362)であり、人口については、多い順に、ロレート県(14万7398人)、フニン県(7万9743人)、アマソナス県(5万8166人)、ウカヤリ県(5万2633人)です。ナティーバ共同体の規模は、カンペシーナ共同体と比べると小さく、共同体の平均構成員数は155人でした。

先住民族共同体の民族と言語

表5はカンペシーナ共同体が帰属すると回答した民族の内訳です。民族の種類は20種類で、ケチュアの共同体が全体の54.56%を占め、これにアイマラの共同体8.62%が続きます。なお、この20種類の民族のうち、アンデス山岳系の先住民族はケチュア、アイマラ、ハカル、ウロの4種類のみで、残りの16種類はアマゾン系の先住民族です。これは統計行政上カンペシーナ共同体の居住地として地理区分される地域に、アマゾン系の先住民族共同体が存在するためと考えられます。

表5 カンペシーナ共同体が帰属する民族

民族	共同体数	割合%
ケチュア Quechuas	3,646	54.56
アイマラ Aimara	576	8.62
アシャニンカ Ashaninka	10	0.15
キチュワ Kichwa	10	0.15
シャウイ Shawi	6	0.09
クカマクカミリア Kukama Kukamiria	5	0.07
カバナワ Kapanawa	3	0.04
ウラリナ Urarina	3	0.04
アシェニンカ Asheninka	2	0.03
アワフン Awajun	2	0.03
アチュアル Achuar	2	0.03
イキトゥ Ikitu	2	0.03
ハカル Jaqaru	2	0.03
ノマチゲンガ Nomatsigenga	1	0.01
シャラナウア Sharanaua	1	0.01
シビボ・コニボ Shipibo-Konibo	1	0.01
チクナ Tikuna	1	0.01
ウロ Uro	1	0.01
ヤグア Yagua	1	0.01
イネ Yine	1	0.01
無回答	2,406	36.01
合計	6,682	100

出所: INEI (2018e) を基に筆者作成

結果に基づいて、ILO 第169号が定める先住民族の権利の対象となる共同体の線引きが行われることはないという注釈を報告書につけています(INEI2018c)。

また、表6の通り、カンペシーナ共同体で日常に使われている言語のトップは、ケチュア語で全体の68.9%、次がスペイン語の21.0%、3番目がアイマラ語の9.4%でした。

「帰属する民族なし」と回答した共同体が36.0%も存在する点が注目されます。なお、INEIは、先住民族共同体の民族の帰属について、各共同体の自己認識を尊重していること、本センサスが各共同体の民族を確定することを目的としておらず、この結果に基づいて、ILO 第169号が定める先住民族の権利の対象となる共同体の線引きが行われることはないという注釈を報告書につけています(INEI2018c)。

表6 カンペシーナ共同体で主に話される言語

主に話されている言語	共同体数	割合 %
ケチュア語	4,601	68.86
スペイン語 Español	1,406	21.04
アイマラ語	625	9.35
アシャニンカ語	11	0.16
キチュワ語 Kichwa	6	0.09
シャウイ語	6	0.09
クカマクカミリア語	5	0.07
アワフン語	3	0.04
カバナワ語	3	0.04
ウラリナ語	3	0.04
アチュアル語	2	0.03
イキツ語	2	0.03
ハカル語	2	0.03
アシェニンカ語	1	0.01
ノマテゲンガ語	1	0.01
シャラナウア語	1	0.01
シビボ・コニボ語	1	0.01
テクナ語	1	0.01
ヤグア語	1	0.01
イネ語	1	0.01
合計	6,682	100

出所: INEI (2018c) を基に筆者作成

ゾン地域には異なる言語を日常的に話す比較的小規模な民族集団が多数存在することが伺えます。

集計結果からみた先住民族共同体の現状

最後に集計結果からみたペルーの先住民族共同体の概況を報告します。先に言及した ILO 第 169 号では、先住民族が生存を続けるためには、土地への権利が根本にあり、土地と資源は、先住民族の暮らし、社会文化的なまとまり、精神的な健全さの淵源である（トメイ・スウェプストン、2002）と考えられています。

この条約の目的は、国民国家の中で、不利な立場に置かれている先住民族の共同的土地所有・占有の権利、それぞれの言語や社会的諸制度を維持する権利などを認めることにあります。この条約は 1989 年に採択され、ペルーは 1994 年に批准しています。

本条約を批准した国はこの条約の提言に基づいた政策を実施し、先住民族の権利を守る責務を負いますが、これまでペルーの先住民族は、テロリズム、資源開発、貧困問題などはざまで、しばしば厳しい立場に立たされてきました。しかし本稿ではあくまで集計結果から伺える現状に限定して報告いたします。

一方、表7に示したように第3回ナティーバ共同体センサスでは、44種類の民族が集計されました。共同体の数が多いのは、アシャニンカ (19.2%)、アワフン (15.5%)、キチュワ (11.7%) でした。

表8の通り、これらの民族集団が日常的に話している言語は 40 言語におよびます。

ここから、アマ

表7 ナティーバ共同体が帰属と回答した民族

民族	共同体数	割合 %
アシャニンカ	520	19.24
アワフン	419	15.50
キチュワ	315	11.65
クカマクカミリア	216	7.99
シャウイ	185	6.84
シビボ・コニボ	153	5.66
アシェニンカ	113	4.18
アチュアル	94	3.48
ヤグア	86	3.18
マテゲンガ Matsigenka	69	2.55
ヤネシャ Yanesha	65	2.40
ワムビス Wampis	65	2.40
ウラリナ	65	2.40
カンドジ Kandozi	54	2.00
テクナ	38	1.41
イネ	30	1.11
マルイ・ムイナイ Marui-Muinai	24	0.89
ノマテゲンガ	24	0.89
マテス Matsés	19	0.70
ハラクト Harakbut	17	0.63
カシナウア Cashinahua	16	0.59
ボラ Bora	14	0.52
カカタイボ Kakataibo	14	0.52
マスタナウア Mastanahua	13	0.48
カバナワ Kapanawa	12	0.44
ヤミナウア Yaminahua	8	0.30
マディハ Madija	7	0.26
セコヤ Secoya	7	0.26
シャラナウア Sharanahua	6	0.22
マイフナ Majuna	5	0.18
シウィル Shiwilu	5	0.18
アマウアカ Amahuaca	4	0.15
イキトゥ Ikitu	4	0.15
エセ エハ Eje	3	0.11
アラベラ Arabela	2	0.07
カキンテ Kakinte	2	0.07
ナウア Nahua	2	0.07
オカイナ Ocaina	2	0.07
チャミクロ Chamieuro	1	0.04
チャバラ Chapara	1	0.04
ヒバロ Jibaro	1	0.04
マリナウア Marinahua	1	0.04
ケチュアス Quechuas	1	0.04
レシガロ Resigaro	1	0.04
合計	2,703	100

出所: INEI (2018d) を基に筆者作成

表8 ナティーバ共同体の言語

言語	共同体数	割合 %
アシャニンカ語	519	19.2
アワフン語	419	15.5
クカマクカミリア語	216	8.0
ケチュア語	210	7.8
シャウイ語	185	6.8
シビボ・コニボ語	153	5.7
アシェニンカ語	113	4.2
キチュワ語	106	3.9
アチュアル語	96	3.6
ヤグア語	86	3.2
マテゲンガ語	70	2.6
ウラリナ語	65	2.4
ヤネシャ語	65	2.4
ワムビス語	64	2.4
カンドジ・チャブラ語	55	2.0
テクナ語	38	1.4
イネ語	30	1.1
ムルイ・ムイナニ語	24	0.9
ノマテゲンガ語	24	0.9
マテス語	19	0.7
シャラナウア語	19	0.7
カシナウア語	17	0.6
ハラクト語	17	0.6
ボラ語	14	0.5
カカタイボ語	14	0.5
カバナワ語	12	0.4
ヤミナウア語	8	0.3
マディハ語	7	0.3
セコヤ語	7	0.3
マイフナ語	5	0.2
シウィル語	5	0.2
アマウアカ語	4	0.1
イキトゥ語	4	0.1
エセ エハ語	3	0.1
アラベラ語	2	0.1
カキンテ語	2	0.1
ナウア語	2	0.1
オカイナ語	2	0.1
チャミクロ語	1	0.0
レシガロ語	1	0.0
合計	2,703	100

出所: INEI (2018d) を基に筆者作成

公的機関による先住民族共同体の認証

表9は、公的機関による先住民族共同体の認証の状況を示したものです。ペルーで先住民族共同体の認証を行っている主な公的機関は、農業灌漑省、同省の特別土地所有権プロジェクト (PETT)、地方政府 (Gobierno Regional)、インフォーマル財産正式化庁 (COFOPRI) の4機関です。

表9 公的機関による先住民族共同体の認証の状況

公的認証機関	農業灌漑省	PETT	地方行政府	COFO-PRI	その他	無認証	無回答
カンペシーナ共同体	69.4	13.6	4.5	5.1	3.9	2.6	0.9
ナティーバ共同体	62.7	8.5	11.2	4.6	2.7	9.8	0.5

出所: INEI (2018e, 2018d) を基に筆者作成

このなかで、農業灌漑省による認定が最も多く、カンペシーナ共同体の 69.4%、ナティーバ共同体の 62.7%が同省から認証を受けています。公的機関による認証は、先住民族共同体が共同体の土地

の所有権の登録手続きを行う前提条件となっており、先住民族共同体の土地の所有権の認証もこれらの機関が行っています。集計結果によると、カンペシーナ共同体の 2.6%、ナティーバ共同体の 9.8%が公的機関から認証を受けていません。

共同体の土地の所有権

表 10 は、公的機関から認証を受けている共同体のうち、土地の所有権の認証を受け、証書を所有している共同体と土地の所有権の証書を持っていない共同体の内訳を示しています。カンペシーナ共同体の 19.8%、ナティーバ共同体の 22.8%が土地の所有権を証明する公的証書を持っていないと回答しています。

表 10 土地所有を証明する証書の有無

	公的機関認証のコミュニティ数	土地所有証明証書の有無			
		あり	なし	無回答	
カンペシーナ共同体	共同体数	6,453	5,147	1,277	29
	内訳	100.0%	79.8%	19.8%	0.4%
ナティーバ共同体	共同体数	2,425	1,871	552	2
	内訳	100.0%	77.1%	22.8%	0.1%

出所: INEI (2018e, 2018d) を基に筆者作成

土地をめぐる紛争

表 11 に示したとおり、カンペシーナ共同体の 36.7% (2,449)、ナティーバ共同体の 29.9% (808) が土地に関する紛争を抱えていると回答しています。カンペシーナ共同体の土地紛争の 56.1%、ナティーバ共同体の土地紛争の 44.8%が他の共同体と土地紛争を抱えており、共同体の土地の境界が不明確なことが一因となっていると推察されます。このほか、コミュニティの構成員間のトラブルや特定の個人とのトラブルも多く報告されています。なおカンペシーナ共同体の 11.6%が鉱山会社と、ナティーバ共同体の 14.0% (113) が、木材会社と土地に関して係争中と回答しています。

表 11 土地紛争を抱えるコミュニティとその係争相手

	カンペシーナ共同体	ナティーバ共同体
土地紛争を抱える共同体数	2,449	808
全体に占める割合	36.7%	29.9%
土地紛争の係争相手 (注: 複数回答可)		
同じ共同体の構成員	29.6%	23.5%
他の共同体	56.1%	44.8%
特定の個人	26.8%	27.4%
木材会社	0.9%	14.0%
鉱山会社	11.6%	5.0%
インフォーマルな鉱山探掘者	4.2%	1.6%
石油会社		7.3%
その他	2.9%	3.1%
無回答	1.6%	2.7%

出所: INEI (2018c, 2018d) を基に筆者作成

共同体の教育施設とバイリンガル教育

表 12 は共同体内の教育施設の有無と、教育施設におけるバイリンガル教育の実施の状況を示しています。

カンペシーナ共同体うち、ケチュアの共同体の 75.5%、アイマラの共同体の 73.4%が、なんらかの教育施設でバイリンガル教育を実施していると回答しています。他方、ナティーバ共同体については、アワフン共同体の 82.1%、アシェニンカ共同体の 84.2%、イネ共同体の 92.3%、カシナウア共同体の 93.7%がバイリンガル教育を実施していると回答しており、ナティーバ共同体のバイリンガル教育の高い比率が注目されます。

ただし、カンペシーナ共同体の約 78%がケチュア語・アイマラ語を日常生活で使っているのに対し、ナティーバ共同体には異なる言語を話している小規模な民族集団が数多く存在しています (表 5~8 参照)。

このように、双方の共同体の事情が異なっているため、カンペシーナ共同体とナティーバ共同体の単純な比較はできないと考えます。

表 12 教育施設の有無とバイリンガル教育の実施状況

先住民族共同体	共同体内の教育施設		バイリンガル教育		
	あり	なし	あり	なし	無回答
カンペシーナ共同体	95.2%	4.8%	59.4%	36.0%	4.6%
ナティーバ共同体	96%	4%	70.5%	25.5%	4.0%

出所: INEI (2018e, 2018d) を基に筆者作成

通信サービスへのアクセス

表 13 のとおり、ナティーバ共同体、カンペシーナ共同体とも、通信サービスへのアクセスは極めて低く、ここに挙げられている通信サービスのすべてにアクセスがないと回答した共同体が、カンペシーナ共同体の 72.4%、ナティーバ共同体の 57.0%存在しています。

例えば、インターネットへのアクセスのペルーの全国平均が 28.2%、携帯電話の所持率が 83.8%

表 13 各種通信サービスへのアクセス

	カンペシーナ共同体	ナティーバ共同体
インターネット	7.5%	2.9%
公衆電話	11.8%	19.9%
ラジオ	4.8%	3.6%
無線	6.1%	21.6%
ケーブル・衛星放送 TV	10.7%	4.9%
携帯電話	1.0%	0.5%
該当なし	72.4%	57.0%

出所: INEI (2018e, 2018d) を基に筆者作成

(INEI 2018b) に対して、カンペシーナ共同体は、インターネット 7.5%、携帯電話 1.0%、ナティーバ共同体は、インターネット 2.9%、携帯電話 0.5% と、非常に低く、先住民族共同体とそれ以外のペルー社会では、通信環境に大きな格差が存在することがわかります。

先住民族共同体の生産・経済活動

表 14 から、カンペシーナ共同体、ナティーバ共同体ともに、農業を生業にしているコミュニティが最も多く、次いで牧畜という結果になっています。この表に挙げられている活動がペルーの先住民族共同体の主な生産・経済活動と考えられます。

表 14 カンペシーナ／ナティーバ共同体の生産・経済活動

活動	カンペシーナ	ナティーバ	活動	カンペシーナ	ナティーバ
農業	6,414	2,668	鉱業	20	
牧畜	5,009	1,611	手工芸	1,544	607
狩猟	30	335	魚養殖	108	206
採集	21	10	農業副産物	27	
林業	932	282	畜産副産物	375	
商業	109	63	その他	26	15
運送	3	1	該当なし	7	12
観光	14	4	注：複数回答可		

出所：INEI (2018 c, 2018d) を基に筆者作成

おわりに

ペルーの 2017 年センサスでは、民族への帰属に関する自己認識に関する質問が取り入れられ、先住民族共同体全体を対象とする先住民族共同体センサスが初めて実施されました。民族への帰属の自己認識だけで個人や先住民族共同体の民族を特定する手法には限界があり、改善の必要性が指摘されていますが、これらの一連の取り組みがペルーの民族統計の整備に向けた大きな一歩であったことは間違いないと思います。

多様な自然環境と複雑な民族構成を持つ国ペルーでの人口センサスの実施には、今後も大きな課題が残されています。筆者は、今回の執筆にあたり、ペルーの人口センサスに関する一連の報告書を紐解きながら、国家統計は、地道な統計調査の実施、集計、分析、そして試行錯誤の繰り返しによって発展していくものであることを実感しました。今後のペルーの統計制度の発展を願いつつ、筆を置きます。

参考文献

- 清水達也 (2009) 「第 II 部 高地農村部先住民を対象とする政策／プログラム／プロジェクトの評価：第 5 章 ペルー」(柳原透・清水達也・藤田護編『アンデス高地先住民への協力』独立行政法人国際協力機構 JICA 研究所所収) 106-135。
https://www.jica.go.jp/jica-ri/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-i/publication/archives/jica/kyakuin/pdf/200903_pov_07.pdf
- トメイ、マヌエラ、リー・スウェプトン (2002) 『先住民族の権利：ILO 第 169 号条約の手引き』苑原俊明、青西靖夫、狐崎知己 訳 論創社。
- 細谷広美編著 (2012) 『ペルーを知るための 66 章』(エリア・スタディーズ 35) 明石書店。
- Homberger, Esteban and Nancy Homberger (1983) *Diccionario Trilingüe Quechua de Cusco: Quechua, English, Castellano*, 2nd ed, Qoya Raymi. Instituto Nacional de Estadística e Informática (INEI), (2018a) *Directorio de Comunidades Nativas y Campesinas: Censos Nacionales 2017: XII de Población, VII de Vivienda y III de Comunidades Indígenas, III Censo de Comunidades Nativas y I Censo de Comunidades Campesinas*, INEI.
https://www.inei.gov.pe/media/MenuRecursivo/publicaciones_digitaless/Lib1597/
- (2018b) *Perú, Resultados definitivos de los Censos Nacionales de 2017: XII de Población, VII de Vivienda y III de Comunidades Indígenas*, INEI.
https://www.inei.gov.pe/media/MenuRecursivo/publicaciones_digitaless/Lib1544/
- (2018c) *Resultados definitivos del I Censo de Comunidades Campesinas :Censos Nacionales 2017:XII de Población, VII de Vivienda y III de Comunidades Indígenas- III Censo de Comunidades Nativas y I Censo de Comunidades Campesinas*, INEI.
https://www.inei.gov.pe/media/MenuRecursivo/publicaciones_digitaless/Lib1599/
- (2018d) *Resultados Definitivos del III Censo de Comunidades Nativas: Censos Nacionales 2017: XII de Población, VII de Vivienda y III de Comunidades Indígenas- III Censo de Comunidades Nativas y I Censo de Comunidades Campesinas*, INEI.
https://www.inei.gov.pe/media/MenuRecursivo/publicaciones_digitaless/Lib1598/
- Tipula, Pedro (2021) *Los censos y los pueblos indígenas: una relación aún por construir*, Ideele No. 272.
<https://www.revistaideele.com/2021/03/09/los-censos-y-los-pueblos-indigenas-una-relacion-aun-por-construir/>

村井 友子 (むらいともこ) アジア経済研究所図書館

検事総長辞任を要求してゼネストー続く選挙後の緊迫

前号で報告したように、今年6月グアテマラで大統領選挙が行われた。しかし、どの候補者も過半数の得票がなかく、国民希望党(UNE)のサンドラ・トーレス(15%)とセミージャ(種の運動)党のベルナルド・アレバロ(12.2%)の上位2名で8月に決選投票が行われることとなった。

トーレスは大統領夫人であったことがありその時社会プログラムの責任者だったし、その後も2回大統領選に立候補して政治経験は長く知名度も高い。が、同時にこれまでグアテマラ政界を牛耳ってきた「汚職同盟」の一部でもある。一方のアレバロは新しい革新政党から出馬し、国政経験がないが、これまでの汚職を一掃しなければならぬと主張した。ほとんど無名のアレバロが一気に第二位になったのは驚きをもって受け取られたが、それだけこれまでの政治の腐敗にうんざりして怒っていた有権者が多かったことの表れでもあった。

決選投票が決まった第一回投票直後から、選挙結果を覆そうとする動きが出た。検事総長コンスエロ・ポーラスはセミージャ党創設時の党員登録の不正をもとに政党要件を満たさないとして党としての法人格を停止させるよう申し立て、裁判所がそれを認め選挙最高法廷に命じた。これは数年前にセミージャ党がこれを告発していたが調査もされず放っておかれたもので、これを逆手にとって検察がつつき始めたのだ。

グアテマラでは「選挙と政党法」(憲法と同レベル)で、選挙最高法廷だけが選挙に関わる問題を判断できる唯一の機関で大きな権限を持っている。下級裁判所にはこのような判断を行う権限がないにもかかわらず、政党の法人格停止判決を下

したのだ。これは憲法裁判所まで行き、選挙期間中は法人格剥奪を行わないことになった。ほかにも複数の政党から異議申



副大統領カレン・エレラとアレバロ

し立てがあり、票を数え直すなど混乱した。検事総長ポーラスや判決を下した下級裁判所の判事などは米国の汚職公職者のブラックリストに載っている。

ベルナルド・アレバロ当選

決選投票は無事に8月20日行われた。結果は、アレバロが2,441,661票(得票率60.91%)で、1,567,472票(同30.09%)のトーレスを大きく引き離して勝利した。特に都市部でアレバロに投票する人が多かった。「勝者は無効票」と言われたほど抗議の無効票が多かった第一回投票に比べ、決選投票では無効票はわずかであった。選挙最高法廷はこの結果を公式に認めた。選挙監視に入った国連や米州機構もこれを認めた。

検事総長の介入

しかし検察は、組織犯罪と関わる刑事事件という名目で、選挙最高法廷や各地の選挙事務所、セミージャ党に対して強引な家宅捜査を繰り返した。検事総長が命令したものだ。さらに検察は集計された投票用紙や集計表などの選挙にかかわる重要な文書まで多数を押収したのだ。家宅捜査には過剰な数の警官が動員され、パトカーのナンバープレートが隠されていたり、検察官がマスクとサンングラスという覆面状態で乗り込んだり、と内戦時代を彷彿させるような有様であった。

検事総長ポーラスがここまで強引にやれるのは、その背後にアレバロが大統領になると困るという勢力がいるのは明白である。国内からの非難はも

ちろん、国連や米州機構など国際社会からも検察の選挙への介入への批判と民主主義を懸念する声明が相次いだ。



左側が検事総長コンスエロ・ポーラス

ゼネスト始まる

これに抗議して、10月2日、48 カントネス（トトニカパン地域 48 の先住民コミュニティを束ねる組織。昔から途切れず継続してきたグアテマラでも代表的なマヤ先住民族の権威。大きな動員力を持つ）が、選挙結果の尊重と検事総長らの辞任を要求し検察本部前に座り込みを始めた。これに全国の幅広いセクターの多くの人々が呼応した。抗議は燎原の火の如く広がりゼネストが始まった。



道路封鎖

首都でのデモや抗議行動と並行して、いくつもの重要地点で道路封鎖が始まり、毎日あちこちで市民や学生の参加が増えていった。

これほど大規模な抗議行動はなかったというほどの規模で展開された。が、農民組織 CODECA 以外の農民団体や先住民団体などの民衆組織は動員力を失っており資金もなく、組織としての参加ではなくメンバー個人が参加するという形になった。多くの労組、教組は政権の御用組合になってしまっており、ゼネストには参加せず、最大手の教組は組合員の参加を禁止したほどだった。

次期大統領アレバロも、48 カントネスの動きとは距離を保ちつつ SNS で抗議を呼びかけている。

道路封鎖があちこちで始まると、政界、財界から「移動の自由の侵害」であるとして強制排除を要請する声が上がった。検事総長は座り込みや道路封鎖を武力で強制排除させる命令を出させ、あわや流血の惨事かと思われが、内務大臣がデモの権利を尊重して対話を重視し、警官の火器不携帯を命じて避けられた。ポーラスは、命令不履行で内務大臣を解任するように憲法裁判所に提訴したが、その前に本人が辞任、後継者もその姿勢を踏襲しており、今の所暴力事件に至っていない。

このような事態になってもジャマティ大統領はなんらの手を打てず、米州機構に仲介を依頼した。これを受けて米州機構アルマグロ事務総長は、起こっている一連の問題の解決を困難にしているのは「これまでに例を見ない不適切で、正当

化できない、威圧的な」検察の対応そのものであり、本来の職務を遂行する代わりに一つの政党への弾圧をおこなっていると批判した。

解任できない検事総長

抗議で第一の要求は検事総長の辞任だが、数年前の法改正で検事総長は解任できなくなった。大統領は任命権をもつが罷免権をもたない。権力の腐敗に切り込む時などに検事総長が職務を果たすための強力な後ろ盾となるが、現検事総長のように自身が汚職、違法なことをしても辞任させられない諸刃の刃である。職務中の不正・犯罪で有罪判決を受けなければ解任されることはなく、事実上不可能だ。本人が辞任すると言わなければどうすることもできない。大統領や政権要職者らは同じ利害関係があるので、辞職要請すらしていない。

10月26日、二週間以上にわたって続いた道路封鎖はほぼ終わったが、抗議行動は続いている。48 カントネスは戦略を変更し、首都に抗議行動を集中することになった。各地域の意思決定は地域ベースなので異なるが、検察本部前の座り込み抗議行動は、10月2日からずっと維持されている。地方からも入れ替わり立ち替わり抗議にきている。

このような状況のもと、最高選挙法廷は選挙期間の延長を検討することになったが、結局予定通り10月31日で終了とし、ここに選挙結果は確定した。が、同時にセミージャ党の法人格停止が実行されることにもなり、今後さらなる混乱も予想される。しかも、検察は職権濫用や職務違反などの名目で最高選挙法廷判事全員の不逮捕特権剥奪の審議を申請し、議会がこれを審議することになった。これが通れば選挙法廷の力が大きく削がれ、検察による「クーデター」がさらに進む状況も生まれる。

アレバロの大統領就任は来年1月14日である。米州人権委員会はアレバロの暗殺計画が二件（うち一件については政府要人が関与としている）あるとして、政府に対し彼の安全を確保するように要請している。何もせずだんまりを決め込む大統領と居座り続ける検事総長、そして抗議は続く。アレバロが無事に就任まで漕ぎ着けたとしても、その後には難しい政権運営が待っている。

首都サンティアゴに着いて 唐澤 秀子

緊張の滞在

短い滞在でしたが、忘れられないテムコ。ディジーの家族の笑顔と涙、別れのキスを託された女性の強い瞳、チリの国花、山のなかの木の茂みにしか生えないという可憐な美しいコピウエの花。たくさんおしゃべりし、いっしょに食事を作り、まるで以前から親しい友人のように過ごさせてもらった家族に別れを告げ、汽車に乗って首都サンティアゴへ向かいました。

クーデターから2年半。テムコはディジーの家族という信頼できる人たちを訪ねたのですから、どこか安心感があったのです。でもこれから向かうのはあまりにもむごい弾圧の数々が伝えられている首都サンティアゴです。左翼系の書籍を売っていても手を出してはいけない。かならずスパイがいる。知らない人に話しかけられても心を許してはいけない。外国人に対しては疑い深い目が向けられる、など、心重くなるようなことばかりです。

サンティアゴに着いて、どこにどのように宿を決めたのかまるで記憶がありません。めずらしいことです。たぶん宿を決め、食事などに出てもだれも話しかけてこないし、こちらからも声をかけるようなこともなかったのでしょう。これまでの旅でこんな経験は初めてのことでした。わたしの記憶の中の街は歩く人もまばらで、まるで沈黙の底に沈んでいるようでした。

それが時を知らせる教会の鐘の音が奏でるメロディーが、ビオレッタ・パラ（1917~67年）の「人生よ、ありがとう」だったのです。ビオレッタはけっして軍政に好まれた人ではありませんでした。それどころか鉱山で働く労働者を訪ねて歌い、チリ各地で忘れられていた民謡を掘り起こし「新しい歌運動の母」と称されていました。

彼女に続く「新しい歌運動の旗手」ビクトル・ハラはクーデター直後逮捕され、5,000人余の人びとが捕らえられ収容されていたスタジアムで無残にも軍によって殺害されました。最後までギターを弾き、歌って人びとを励ましていたと伝えられています。そんな恐ろしい記憶の残る街に「人生よ、ありがとう」が響いていたのです。



ビオレッタ・パラの「人生よ ありがとう」

どこの街に行ってもうそうしていたように、書店は丁寧に見て回りました。想像していた以上に品揃えがよく、「左翼」系の書籍はずいぶんそろっていました。かなり迷ったのですが、何冊かは買ったように記憶しています。ここでも声をかけられることはなく、書店でよく出会う本を手にとって内容に見入るような客も少ないような感じでした。

それでも美味しかったウニとアワビ

チリは海産物が豊富な国ですから、やはり市場へ行ってみたく、当たり前な気持ちなのに何をしてもちょっと考えてしまいます。「ウニ」と「アワビ」。ボリビアで私たちがお世話になった家族はウニが名物と聞いて食べてみたけど、と〜っても食べられなかった、と話したのを思い出します。慣れない人には、あの殻の様子、オレンジ色のとろりとした触感など気色が悪いというのも無理ないかもしれません。私たちにとっては「う〜ん、美味しい！ サイコー！」。

でもいくらなんでもこの量は食べきれない。そこでポリ袋をもらい、中に入れ塩をふっていたら、「どうするの？」と、尋ねた人がいました。「食べきれないから、塩漬けにしておけば、またおいしく食べられるから」と説明すると、ふう〜んとあまり納得した様子はありません。それでもサンティアゴでわたしたちに話しかけてきた初めてで最後の人だったのです。後にコスタリカで訪ねていったチリ人と、その友人のドイツ人がびっくりしていました。チリの人とはとてもおもてなしが好きで、旅する人を見たらほっておかない。すぐ声をかけるのだけどね、そんなことになっているのだと、嘆いていたことを思い出します。

チリからペルーへーサンヒネスらと再会

サンティアゴにはほんの3、4日滞在したくらいでペルーに向かって発ちました。

北へ向かって帰っていく途中、コロンビアでボリビアの映画製作集団ウカマウの監督ホルヘ・サンヒネスとプロデューサーのベアトリス・パラシオスに再会しました。エクアドルで別れてからの旅のことなどを話していたときのことです。ホルヘはクーデターの時チリに亡命していたといっって当時のことを話してくれたのです。

アジェンデ政権当時は自国の政権によって迫害されていたホルヘのような人びとを受け入れました。南米ではアメリカ合州国の影響下にある軍事政権の国々から亡命してきた人びとがたくさんいたのです。その頃スウェーデンは社会民主労働党が政権の座にあり、パルメ首相はベトナム戦争へのアメリカ合州国の介入を批判し大量の兵役忌避者や脱走兵を受け入れていたのですから、多くの人が亡命先としてスウェーデンを考えるのも当然のなりゆきだったと思います。

でもホルヘはそうではなかった、ともかく中南米で自分たちの映画をもって農民の間をまわり、活動を続けたいと思っていたと。そのときホルヘはただアンデスを越えてペルーへ入ったとしか言いませんでした。口外してはいけないことがたくさんあったのだろうと推察するばかりです。

映画『チリ三部作』秘話

でもこの話はもうすごかった、はらはらドキドキの連続だったと言って話してくれたのは、親友だったグスマン監督の撮った『チリ三部作』というドキュメントのフィルムのことです。

「彼は別に政治活動に深くかかわろうとか、強い興味があるというわけではなかった。ただその頃の人びとの動きが非常に魅力的だったから市井の人びとの日々の様子や、企業の工場などから技術者や管理者など高度な専門知識を持った人びとが去ってしまった後、労働者が自主管理をはじめ、みんなで話し合い学びあって工場の運営にあたり、製品を作り出していく過程、そんなものがとても興味深かったのだ。トラック運転手たちのサボタージュ、上流階級の女性たちが行ったフライパンデモ、議会の様子、どんなふるまいをしていたか、それを記録したいと思ったと、グスマンは話していた」と語り、

クーデターが起きてしまってこのフィルムを国外へともかく早く持ち出さなければならなかったとき、どうしたか、彼の話は続きます。

「クーデターの危険が迫っていたから、彼はその時どうするかいろいろな可能性を考えたのだ。グスマンの叔父さんがたまたまピアニストで、政治活動にはまったく疎い人であった。だからぜんぜんマークされていない。彼にこのフィルムをスウェーデン大使館に運び込むように頼んでいたのだ。叔父さんはどんなに危険なことか、あまり深くは思わなかったようだった。こころよく引き受けてくれていた。だが大使館に運び込む前にクーデターが起きてしまった。それからはあわてたね。いたるところに兵士が大勢いるし、検問は厳しい。それでも大使館まで運び込むのに成功したんだ。そして外交行囊として船に積み込もうと大使館から外へと運び出した。それも軍の包囲を突破してだ。いたるところで軍の検問にあい、いやがらせにもあったが、奇跡的にすり抜け、ようやくバルパライソ港にたどり着き、出航寸前の船になんとか積み込むことができた」。

時々笑いながら語ってくれたホルヘだってこの時は自分が脱出するのに精いっぱいだったはずです。無事脱出したあと、きつとお互いの安否を尋ねあい、語り合い、この話はきっと仲間の内で無事を喜び、フィルムも無事だったことを喜び合って、繰り返し語られたのでしょ。

後にこの『チリの闘い』と題された三部作を山形映画祭で、またその後アテネフランセで上映された時と2回見ることができました。荷車を小走りに走りながら引く若者のいきいきとした表情、管理者がいなくなった工場でみんなでどうするか話し合う労働者たちの真剣な表情と、自分たちで管理するすべを獲得していく様子、どの場面も全力で自分たちの道を切り開いていこうとするエネルギーに満ち満ちて、いまでも胸があつくなります。



チリ3部作上映のポスター（チリ、2018年）

参考文献：

- ビオレッタ・パラ『人生よ ありがとう』（現代企画室）
- パトリシオ・グスマン監督『チリの闘い』DVD（IVC）

ラテンアメリカにおけるフェミニズムをめぐる歌の旅(3)

ラテンアメリカにおけるフェミニズム運動はイタリア、スペインの影響も大きく受けながら、いわゆる「主流フェミニズム」とは異なるポジションから、草の根の闘争としてのフェミニズムを実践してきた。その中心となったものがニ・ウナ・メノス（もう一人も殺させない）というフェミサイド（女性憎悪殺人）をめぐる闘いであり、もう一つが現在少しずつ成果を上げつつある中絶合法化の闘いであるといえるだろう。さらに先住民やアフロ系のインターセクショナルな差別構造に対するマイノリティからの運動が展開されてきた。こうしたラテンアメリカのフェミニズムの動きは、多くの歌を生み出してきた。ここでは過去2回その中の重要な曲とおもわれるもの、私が個人的に心を打ち抜かれた曲を紹介してきた。

予定では今回ペルーにスポットを当てていく予定だったが、原稿を準備している中で北米メキシコとそのボーダーの先に生きるラティノーたちの非常に層の厚い曲の中から、もう少し紹介したくなったので、予定を変えてご紹介したいと思う。なかなかペルーに到達できていないが、もうしばらくお待ちいただければと思う。

久しぶりにオリジナル曲中心の新譜『すべての花から (De todas las flores)』を出して多くのファンを喜ばせたナタリア・ラフォルカデは、現代メキシコを代表するシンガーソングライターだ。

そんな彼女が2020年、コロナ禍のさなかに発表したのがこの「La malquerida」だ。憎まれる女、というようなニュアンスと共に、人間性を否定され、透明化され、暴力を振るわれることで苦しむ女性が、私の目を見て、声を聴いて、私をきちんと対等な存在として認めてほしい、と語りかける。では、それを行っているのは誰か？それは言うまでもなく、男である。男性中心に構築された社会の中で周縁化され、不可視化され、収奪と暴力を当然として受け入れることを求められる女性という存在が、人間であると歌い上げている作品だ。

彼女は、この数年のメキシコの伝統を学び、そこから作品を発表していくプロジェクトの中で、同様にメキシコにおける女性解放運動とも出会い、その闘争の意味を改めて問いなおし、自らの問題として声を上げることを、その戦列に自らも加わることを



ナタリア・ラフォルカデ『La malquerida』

選んだのだろう。

そしてナタリア・ラフォルカデと同じベラクルス生まれのシルバナ・エストラーダは、2022年にラテン・グラミーの新人賞を受賞した実力派のシンガーソングライターだ。受賞作となった『Marchita』に収録された「Sabré olvidar (忘れ方がわかるようになる)」は、傷ついた女性（それは暴力によるものか、失恋によるものかは明示されない）が、傷つけた当人からだけでなく、自らが自身に向けてしまっている抑圧をも解放させ、回復へと歩み始めるための道を描いたものであるようだ。

力強くハスキーな彼女の声が歌い上げるその歌声は傷つき自らを保てなくなるほどギリギリに追い詰められた人に寄り添い、力づけるものとなっている。再び笑うこと、歌うこと、踊ること、そして叫ぶこと。それははじめ空疎でもいい。体が動くこ



シルバナ・エストラーダ『Marchita』

とで、心も変化していくきっかけとなりうる。そしてその過程で自身を自己という檻から解き放つことで、人間存在として「愛」を再び自らの中に見いだしていくのだ、とそういう曲となっている。

彼女のハスキーで伸びやかな声で温かく歌い上げられることでこの曲はまっすぐに心の中に入ってくる。多くの人に届いた作品であったのではないか、と思う。

さらにどうしても取り上げたい人が一人いる。国境の北、テキサスでスペイン語と英語で歌い「テハーンの女王」と言われ、絶頂期にたった 23 歳でファンクラブの会長に殺されたセレーナである。

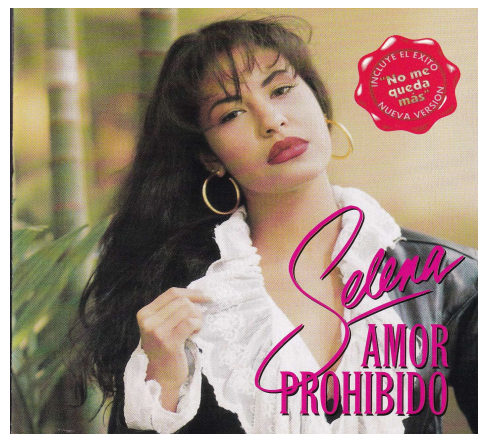
幼少期から音楽を始め、極めて若い時代にすでにスターとなった彼女の劇的で伝説的な人生は、映画化され、また近年ドラマ化もされている。アメリカやメキシコだけでなく、ラテンアメリカ世界で今なお熱愛され、大きな影響力を持ち続けている歌手である。

彼女は、同時にテキサスのメキシコ系というマクスモ社会の中で常に最前線を切り開いてきた。中でもアメリカで差別されるラティーナたち、特にアメリカの主流社会の「美」から浮いてしまうと容姿に悩んでいた若い女性たちに対して、ラティーナとしての美しさという新たな価値を、自らのパフォーマンスと今なお影響力を持つファッションで切り開いた希少なアーティストでもある。

そんな彼女の「Si una vez」は、男女の DV を想像させる関係性の精算を宣言する曲として今なお根強い人気がある曲だ。ポップなクンビアのリズムに乗せて、愛に惑い、苦しみの中で後悔し、決別を選ぶ選択が歌い上げられる。

これまでに紹介したメキシコや国境の北からの歌（ビビール・キンターナ、レネ・ゴースト、エル・ハル・クロイ）に比べると、今回紹介した曲は幾分穏健であったように感じたかもしれないが、こうした濃淡、アプローチの豊かさも非常に重要なポイントであるといえる。様々な立場、考え方、経験があり、トラウマや回復の度合い、ケアの有無なども人それぞれだ。だからこそ、こうした多様な歌のバリエーションが生まれてくることが重要であり、メキシコ近辺はそれがかなり達成できている地域であるように思う。

最後にもう一曲、こんどはドカンと強烈なやつを紹介して終わりたい。レベッカ・ラネはメキシコの南に位置するグアテマラの歌手だ。フェミニズム・ラッパーであり、社会学者であり、詩人であり、役



セレーナ『Amor prohibido』（1994年初版）

者であり、アナキストであると表明している。さらに、彼女の叔母はグアテマラ内戦時、ゲリラ兵士となり、内戦末期に政府によって強制失踪させられているという。グアテマラといえば、20 万人を超える虐殺抜きに社会のことを考えることは難しいほどであるが、だからこそ、その果てのない暴力の中から先住民フェミニズムも立ち上がり、世界の矛盾を暴く最前線となっている。

そんなラネの代表曲が、アルゼンチンから始まったフェミニズム闘争「ニ・ウナ・メノス」をタイトルに冠した曲だ。フェミサイド、性暴力、中絶禁止、こうした女性を巡る問題に声を上げることがヒステリーだという男性社会に配慮なんてせず、自分の身を守るために闘わざるを得ない、そんな女性の叫びが満ち満ちた曲だ。

そしてこの曲は、女性を勇気づけ、声を上げていいのだといいながら、返す刀で視線をそらそうとする男に対して、「で、おまえは何をどう考えているのか」と無言の圧力で問いかけているのだろう（と男である私は思っている）。女性差別は女の問題ではなく男の問題である。男性はまずそこを受け止めることから、自らの問題として彼女らに連帯し、行動を起こしていかなければいけないだろう。



レベッカ・ラネ『Ni una menos』

アジェンデ最後の愛人

半世紀前の1973年9月11日、チリ軍事クーデター当日自殺したサルバドール・アジェンデ大統領(享年65)には愛人が少なからずいて、妻オルテンシア・ブッシは苦悩していた。最後の愛人はコロンビア人グロリア・ガイタン、人も知るホルヘ・エリエセル・ガイタンの娘である。1937年9月20日ボゴタに生まれ、86歳で健在だ。

父ガイタンは言うまでもなく、1948年4月ボゴタで暗殺された政治家で、次期大統領の最有力候補と目されていた。ガイタンは米CIA(中央情報局)に謀殺された可能性が強い。この事件を契機に「ボゴタソ」(ボゴタ大騒擾事件)が勃発し、国中に波及。コロンビアは今日に続く長い「ビオレンシア(暴力)」の時代に陥ることになる。

二人の出会いは1959年7月26日、キューバ革命の原点である「モンカーダ兵営襲撃蜂起」の6周年記念日のハバナだった。グロリアはガイタンの一人娘として招待されていた。大群衆で埋まった革命広場の貴賓席バルコニーに、革命の覇者フィデル・カストロ首相(当時)、若き日にメキシコ革命を戦ったラサロ・カルデナス元墨大統領らと並び立った。カストロは大学生だった11年前、ラ米大学生会議出席のためボゴタに滞在中、ボゴタソに遭遇。その因縁もあってガイタンの妻と愛娘を招いたのだった。

グロリアはその夜のレセプションでチェ・ゲバラにも会ったが、心を惹かれたのは当時51歳のアジェンデだった。コロンビアとチリに戻った両人は文通を続けた。しかしグロリアは同国人の経済学者と結婚、娘2人を儲ける。だが1971年に離婚、生活苦に陥った。

アジェンデは1970年11月大統領に就任していたが、コロンビアのチリ駐在大使からグロリアの消息を聴くと1973年1月、彼女を娘たちと共に首都サンティアゴに招き、国家企画事務所(ODEPLAN)勤務の経済補佐官にした。だが会計検査院はこの人事を認めず、事実上無給だった。彼女はそれを大統領に言わず、友人たちの支援で暮らしていた。

当時アジェンデは、自分の秘書Mと愛人関係にあった。大統領はグロリア母娘をアパートメントに住ませたが、事もあるうちに、妻オルテンシアや娘イサベルのいるトマス・モロ(大統領公邸)にグロリアをほぼ毎晩、夕食や業務報告のため招き寄せていた。秘書との関係は色褪せ消えてゆく。

オルテンシアらが2階の寝室に上がると側近が合図、大統領と愛人の時間が始まるのだった。その側近とは、身辺警護の若者集団GAP(個人的友人グループ)。クーデター勃発時に殺されるのを偶然免れ、生き延びて出国した元GAPアリエル・ドルフマンも、オルテンシアを欺く役割を担っていたかもしれない。

米国に住むドルフマンは今日、西英両語で文書を書く有名作家・脚本家で、とりわけチリの状況を真摯に書き続けている。アジェンデとグロリアが共に過ごした日々については、エドゥアルド・ラパルカ著『サルバドール・アジェンデ愛の遍歴』に詳しい。

グロリアは「男児」を孕んだ。その妊娠を最初に確認したのは、本職が医師のアジェンデだった。「アジェンデの初の息子にしてガイタンの孫が宿った」—そう二人は信じた。ある夜、アジェンデは己の死を予言し、彼女に生まれ来る「息子」を守るよう言い含める。「彼は死を決意していた」とグロリアは後年述懐する。

「クーデター近し」—1973年8月末から9月上旬にかけて雲行きが怪しくなると、アジェンデは連夜公邸に軍の高官ら呼び寄せて会議を開いていた。グロリアも、大統領から任命されて間もないアウグスト・ピノチー陸軍司令官に何度も会っていた。この将軍がクーデターと軍政の主人公になるのを予測した者は極めて少なかった。

グロリアは娘たちを先にボゴタに帰らせた。そして政変が現実のものになり、軍部のお尋ね者名簿に自分の氏名が載っているのを知るや、コロンビア大使館に身を置き、10月初めボゴタに帰還する。その月のある日、ボゴタ市内を歩いていたグロリアは、アジェンデの赤子を流産してしまう。

心を病んだ彼女は長らく入院生活を送った。しかし立ち直り、「ガイタン主義人民運動」(MPG)党首、下院議員、ルーマニア駐在大使、JE・ガイタンセンター所長などを務めた。

グロリアは2007年、アジェンデとの恋愛関係を認めた。そして「アジェンデは異次元の男だった。だがゲバラやカミーロ・トーレスのように英雄精神をもって死んだのではなく、法治国家を守る政治活動家の義務を遂行するため犠牲になった」と、熱愛した相手の本質を描いてみせた。

ピーマン肉詰め

Chile Dulce Con Carne Molida

秋になりました。この季節はやっぱりおいしいものを食べたいですね。

今回は、簡単で経済的でしかもおいしい料理です。

ユカタンにはさまざまな、からくないチレ（トウガラシ）があります。日本の「ピーマン」は、ユカタン半島ではマヤ語で Ch'ujuk iik とよばれています。スペイン語にすると chile dulce、甘いチレ（トウガラシ）という意味です。

ずっと昔、ユカタンのマヤ民族は、ユカタン豚の肉でこの料理をつくっていました。この豚は黒っぽくて、体毛がすくないのが特徴です。また鳥類の肉もつかっていました。

マヤの時代のメキシコにはコメは存在しなかったため、この料理は、ゆでた豆やトルティーヤといっしょに食べました。いろいろなソースをか

▽材料（4人分）

- ・豚のひき肉 400g
- ・大きめのピーマン 4個
- ・タマネギ 中 1/4個
- ・トマト 中 2個
- ・サラダ油
- ・塩 適量
- ・白こしょう お好みの量
- ・小さめのキノコ（シメジ） お好みの量
- ・キャベツ お好みの量
- ・ニンジン 小1本
- ・ケチャップ

▽作り方

- ①ひき肉と塩、白こしょうをボウルでよく混ぜる。
- ②ピーマンを洗って縦半分に切り、種とへたを



けることもありました。

今回は、キノコとキャベツと人参を添えます。
.....
とりのぞく。

- ③トマトを洗って細かく切る。タマネギは皮をはいでみじん切り。
- ④ニンジン皮をむいて、長さ2センチほどの細切り。キノコは洗っておく。
- ⑤フライパンに油大さじ2をひいて、油があたたまったら、ひき肉をくわえて炒める。
- ⑥炒めたひき肉は油を切って容器にあげる。
- ⑦フライパンにのこった油で、キノコとニンジンをよく炒め、容器にあげる。
- ⑧炒めたひき肉を半分にしたピーマンにつめる。油がのこっているフライパンにならべて、水をちょっとだけ加えて、ふたをする。10分ほど弱火で蒸し煮。
- ⑨キャベツを千切りにする。
- ⑩肉をつめたピーマンと、キノコとニンジン、キャベツを平皿に盛り、ケチャップを添える。

(1) メキシコの中絶合法化で何が起きるか

9 月 6 日、メキシコ最高裁第 1 法廷は刑法で中絶を犯罪と見なすことは違憲であるという裁定を下した。2007 年、メキシコ市ではレイプによる妊娠に限って中絶が容認された。このメキシコ市を嚆矢に、2022 年までに新たに 11 州で中絶は犯罪とされなくなっていた。その契機になったのが、中絶を罰する北部コアウイラ州の法律に関してメキシコ最高裁は 2021 年 9 月に違憲と全員一致で判断したことである。同州では最高で禁固 3 年と罰金刑が科されていた。中絶を合法化する州は 2021 年まで 4 州だったが、2022 年には新たに 12 州になっていた。

2021 年の最高裁判決が重要な判例となり、連邦レベルの医療体制において中絶処置が提供されるようになり、中絶処置の利用が拡大する道が開かれた。今回の判決で、中絶処置を受ける当事者と医療提供者が刑事訴追を免れるとしても、連邦レベルの公的医療制度が中絶処置をいつから提供できるかは不明である。連邦医療制度では中絶処置が法的に義務付けられるのは、当事者がレイプの被害者であるか、母体を守る目的の場合に限られていた。

各州と連邦政府による現行の刑法の無効化のプロセスは遅々として進んでいなかったが、今回の判決で、関連する法律に対し国会が中絶に関する規則を追加することが要請されている。国会では、妊娠期間に関する制限など合法的に中絶を行う条件を決定しなければならない。さらに州レベルでも中絶に関する規則を定める条項を法律に追加することも必要となる。

連邦法で中絶が積極的に合法化されれば、どの州でも中絶当事者は法的な保護を受けられることになる。しかし中絶手術を行える施設の不足に加え、地方自治体が中絶に関する広報を

行わず、多くの女性が中絶の権利があることを知らないままになっている状態である。



出典：<https://www.bbc.com/mundo/articles/cgl2810jld0o>

(2) 海が家の下の土地を飲み込んでいる

パナマの先住民自治区グナヤラのサンブラス諸島 (365 島) で先住民が居住している 38 の島々の標高は 1 メートル以下である。地球温暖化による海面上昇ですべての島は 21 世紀中に水没すると予測され、これらの島の一つカルティ・シュグドゥブ島は 2050 年までの水没が確実視されている。この島ではサッカー場 5 つ程度の狭い土地 (3.7ha) に約千人近くの人々が居住している。水道は引かれず、飲料水はボートで 2 キロメートル (15 分) 離れた本土の川で水を汲むか、売店で購入するしかなく、ごみ処理場もない。人口密集で子供の遊び場どころか居住スペースがないため、300 家族のうち約 100 家族は首都パナマに移住している。

2010 年、本土への移住計画が持ち上がり、2017 年には住宅省によって 300ha の移転用地が確保された。米州開発銀行 (BID) の資金援助で、2019 年から約 22ha の広さのラ・バリアーダと呼ばれる土地で住宅の建設が始まった。用意された居住地区では、島出身の 300 家族が居住する予定だった。1 家族当たり 300 m² の土地と 49m² の住宅が用意され、2DK の住宅には電気、水道があり、浴室もある。

当初、移転は 2023 年 9 月 23 日とされていた。しかし、住宅建設工事は大幅に遅れており、水道施設、下水やごみ処理場も未整備で、診療所もできていない。今後の移転計画の先行例となるべき計画は、うまくいっているとは言えない。当初の移住予定の 9



水面ギリギリの家屋

月末の時点では、首都にいた人も含め、誰も移住していない。移転期限は 2024 年 2 月末に延期されている。



カルティ・シュグドゥブ島



本土に建設の居住区 (22ha)

出典 https://www.hrw.org/sites/default/files/media_2023/07/panama0723_summaryrecs_sp.pdf

編集後記

伊高浩昭氏の連載記事『ラ米百景』の連載番号が、2020年10月発行の174号からずれていることが判明しました。174号に掲載の記事は本来は第75回ですが、第76回となっていました。そんりさ174号から185号までの『ラ米百景』の連載番号は一つ少ない番号が正しいものです。本号186号の記事は第87回となります。お詫びとともに訂正させていただきます。

このミスは、そんりさの記事をもう一つのホームページ (<https://recom.r-lab.info>) に転載する作業を進めている過程で判明しました。ちなみに、2010年代初頭から断続的に掲載された山本昭代さんのメキシコのナルコ回廊のレポートは、『ナルコ回廊をゆくーメキシコ麻薬戦争を生きる人々』として風詠社から2023年10月末(定価1,980円)に刊行されました。

本号の割付けが済んだ11月初旬、来年蜂起30周年を迎えるサパティスタ民族解放軍が2003年から構築してきた反乱自治行政区と善き統治評議会の体制を解消したという知らせが届いた。地区自治政府(GAL)を基盤とした新しい自治体制の構築を模索しているようだ。

小林 致広

次回の印刷作業は東京で、2024年2月10日(土)

発送作業は関西で、2024年2月17日(土)の予定です。

参加いただける方は、recom@jca.apc.org まで連絡ください。

Vol. 185	コロンビア左派政権樹立から一年、終わらない戦争	Vol. 182	「マヤ鉄道」建設は国家の安全保障問題?
Vol. 184	滞在と移動のプロセス メキシコ・グアテマラ国境の事例	Vol. 181	コロンビア大統領選挙 依然続く紛争の現場から
Vol. 183	いのちの踊り ビオダンサ	Vol. 180	ハイチ共和国はどんな国?

メーリングリスト

レコムに入会(もしくは購読)すると、メーリングリストにも無料で参加できます。メールアドレス、自己紹介メールを添え、recom@jca.apc.org まで、ご一報ください。メーリングリストに登録します。レコムの活動は会員のみなさんによって支えられています。

会員の種類

- ☆会 員：年 8,000円 …会の運営、総会参加・投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
- ☆学生会員：年 5,000円 …会の運営、総会参加・投票、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
- ☆賛助会員：年 10,000円(一口) 総会参加、『そんりさ』購読、資料閲覧貸出
- ☆購読会員：年 4,000円 …『そんりさ』の購読、メーリングリスト参加可

レコム連絡先(住所が変わりました) 〒678-0001 兵庫県相生市山手2-502-1 大西方 お問い合わせは、郵便、もしくはe-mailでお願いします。 ホームページ： http://www.jca.apc.org/recom https://recom.r-lab.info e-mail： recom@jca.apc.org Facebook： https://www.facebook.com/recomsonrisa/	郵便振替口座 ：00110-7-567396 日本ラテンアメリカ協力ネットワーク レコム口座 113万8659円 グアテマラ基金口座 89万1989円 (2023年11月現在) そんりさ(SONRISA) 186号 2023年11月18日発行 日本ラテンアメリカ協力 ネットワーク(RECOM) 定価 400円
--	--